

# 銅センターニュース

銅内外装材の美しさに注目あつまる

## ジャパンホームショーに出展

去る十一月十三・十四日の四日間、東京ビックサイトで「Japan Home Show 2003」が開催された。日本最大規模の住宅関連専門展示会である同展示会には、建設業者や設計事務所、ハウスメーカー、マンション供給会社などの建築関係者を中心に、約九万人の来場者があつめた。

日本銅センターはこの展示会に、銅板・条の普及促進の一環として出展。「新感覚の銅イメージ」をテーマに、内外装用の銅製品や屋根用銅板、銅といなどを展示した。なかでも現在、東京デイズTシー(TDS)のホテル「ミラノスタ」のレストランに設置されている銅製シェルモニュメントを、ブース内に部製作して展示し、注目をあつめた。併せてブース内では、環境にやさしく、意匠性、施工性、衛生性、経済性にすぐれた銅の特性について詳しい説明が行われ、来場者の関心をあつめた。



Japan Home Show 2003

最新の試験結果とともに  
銅の抗菌力をくわしく紹介

## ビデオ『銅と抗菌』が完成

これまでも銅の抗菌力に関するさまざまなPRツールを制作し、多くの人々の関心をあつめてきたが、このたび銅の抗菌力をくわしく紹介したビデオ『銅と抗菌』を作成した。内容は、海洋遺物保存に役立てられる銅ネットの防虫効果や黄色ブドウ球菌に対する銅の抗菌作用、病原性大腸菌O-157に対する銅の抗菌作用、レジオネラ菌抗菌試験結果、クリプトスポリジウムに対する

銅イオンの効果、管種別抗菌試験における銅配管の優位性、アルツハイマー病への銅の効果に関する研究など、さまざまな実験の結果から実証された銅の抗菌効果について紹介している。特に新しく実証されたレジオネラ菌やクリプトスポリジウムに対する銅の抗菌作用などの最新の試験結果を盛り込んだ内容となっている。

ご希望の方は、日本銅センターまでお申し込みください。

申し込み先

TEL 〇三三三八三六一八八二



## 国際銅協会(ICA)と積極的な意見交換が行われる

去る二月、国際銅協会(ICA)が日本銅センターを訪れ、日本各地のさまざまな場所で開催する銅製品の視察や、日本銅センターとICA関連事業に関する意見交換が積極的に行われた。

### 銅管工法の視察

ICAアジア地区技術部長 Colin May 氏は、給排水衛生・空調設備設計施工業(有)タルヤ設備工業所を訪れた。同社はこれまでに十数件の銅管工法施工実績を持ち、現場における銅管工法の優位性について、Colin May 氏に説明を行った。また、Colin May 氏は日本銅センターとも交流、意見交換を行った。

### ICA関連事業に関する意見交換

ICAフレジラント Francis J. Kane 氏、米国銅センター John G. Cowie 博士、ICA技術部長 Hal M. Stillman 氏は、日本銅センターとICA関連事業に関する意見交換や国内関係業界(メーカー)との交流を図った。

また甲南大学・杉本教授のアルツハイマー病への銅の効果に関する研究や京都・森本鋳金具製作所における銅および銅合金を使用した鋳金具の製作を見学した。その他にも関西大学工学部や富士電機モーター(株)(社)日本電機工業会、経済産業省、省エネルギーセンターなどを訪問した。



(有)タルヤ設備工業所を訪れたColin May氏



ICAは、京都・森本鋳金具製作所において文化財保存技術保持者(森本安之助氏)と交流した



ICAと日本銅センターはICA関連事業に関する意見交換を行った

# ニュース・トピックス NEWS TOPICS

## 『新・銅と衛生』

## 『銅板屋根構法マニュアル』刊行

このほど、銅および銅製品に関する新しい情報が盛り込まれた二冊子が改訂、発刊された。

『新・銅と衛生』は、日常生活で銅との触れあいが多い銅管と銅イオン、銅板屋根と緑青、銅食器の取扱等の衛生情報をわかりやすく紹介している。さらに、銅と衛生に関する最新情報、銅と健康、銅の微量金属作用、銅・緑青の学術研究実験報告書など、最新の情報が盛り込まれた内容となっている。

『銅板屋根構法マニュアル』は、これまで屋根工事の基準となってきた日本建築学会の屋根工事仕様書」

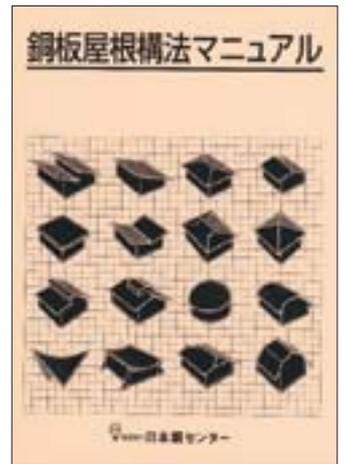
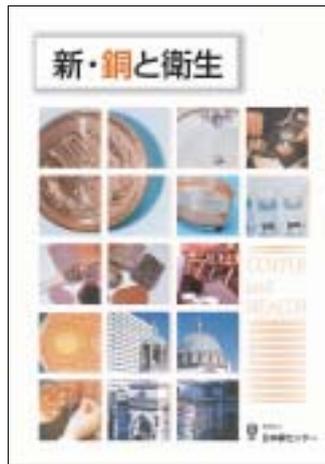
ASS12)が十余年ぶりに改定された。内容を含み、屋根各部の細部まで記述、また銅屋根の一般のおよび専門的なQ&Aも掲載されている。実務の手引きとして活用できる利便性の高い編集構成となっている。

『新・銅と衛生』

定価三千円(税込)

改訂『銅板屋根構法マニュアル』

定価二千円(税込)



## テレビ番組『ようこそ銅の不思議旅へ』が 全映協の短編・VP部門・優秀賞を受賞

去る十二月二十八日、東北六件のテレビ局を通じて放映された『ようこそ銅の不思議旅へ』が、全国地域映像団体協議会の2003全映協フォーラム優秀作品発表会で、短編・VP部門の優秀賞に選ばれた。全国地域映像団体協議会全映協は全国十地域(北海道、東北、関東、中部北陸、大阪、中四国、九州、沖縄)の映像制作社で構成する団体で、参加プロダクション数は三百社あまり。今回のフォーラムには、番組、VP(ビデオパッケージ)、CMの三分野で総数六百作品の応募があった。この賞は、テレビ番組の、キャラクター賞、CMの、全国ACC賞に次ぐもので、優秀賞は産業振興に寄与した作品に贈られる。



『ようこそ銅の不思議旅へ』が全映協の短編・VP部門・優秀賞を受賞(受賞先は番組編集を行った東北朝日プロダクション)

### 編集手帖

春爛漫。新たな息吹が芽生える。新生の始まりとの感に思いを馳せる今日この頃。小生も本誌・編集スタッフを受けはや八年に入ります。若芽のとき感性(無理?)を反映した本誌にすべくさらに努力してまいります。読者のみなさまよろしくお願い申し上げます。

ここに「プロジェクトX」があった。住友金属鉱山・東予工場

熱と力。熱き思いが青年の息吹となりて所内を駆けめぐっていました。また、所内の通り名、掲示などに思わずニヤリと笑みがこぼれる。そのハイセンスなアイデアに素直にマイタ。

ハイブリッドカーに「銅」。新しいことに挑戦しよう」という社運をかけたトップの決断。今世界に羽ばたく実績に。

編集デスク 斉藤久嘉(日本銅センター)

### 「銅」誌編集委員会

- 委員長 増木孝美(古河電工)
- 委員 鉱山/増田勝彦(三菱マテリアル)
- 高橋涉(パンパシフィック・カパー) 永田禎彦(日本鉱業協会) 仲銅/富家将之(三菱伸銅)
- 馬場一憲(神戸製鋼) 松坂和則(日本伸銅協会)
- 電線/湯谷彰(フジクラ) 宮田充(日本電線工業会)

編集 (株)ピー・アール・オー

### 「銅」第一五八号

平成十六年三月三十日発行

発行人 横井弘明

発行所 社団法人日本銅センター

東京都台東区上野二〇二〇うさぎやビル5F

TEL/03(3)3833688

FAX/03(3)3833688

関西事務所

大阪市北区天神橋三・三三五

TEL/06(4)8400863

FAX/06(4)8400864

無断転載禁